



昭和51年12月1日

編集・発行

岡崎市教育委員会

蛍賛歌

一、西に太陽沈むころ

河合の里に花ひらく
往きかう人の足を止め

花びら舞うよその胸に

郷土の誇り蛍の灯

二、清き流れの水底に

耐えし苦難の十か月
四月すくすくもうじきだ
六月やっただせ誕生だ

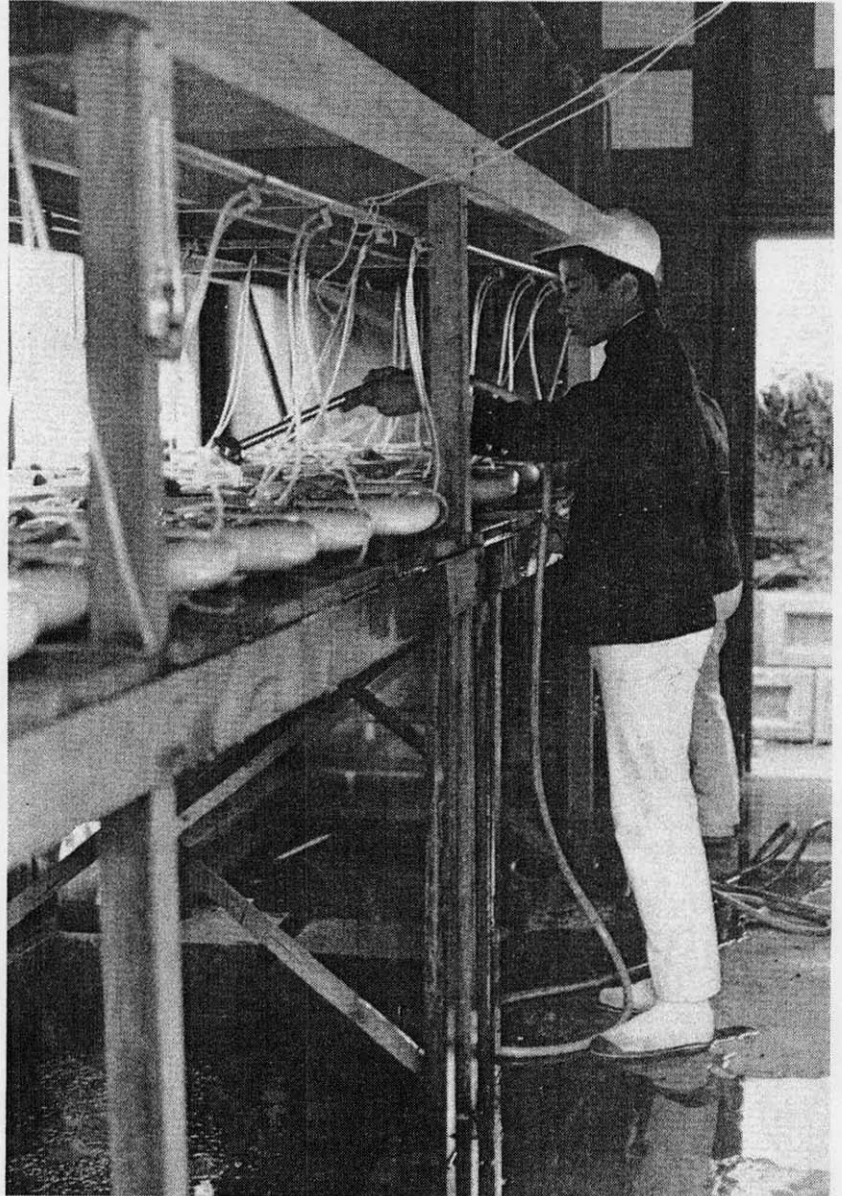
郷土の命 蛍の灯

三、蛍舞いとべ町中に

光はわれらの夢と愛
今日も歌えば湧いてくる
明日の小さな幸せが

郷土の宝 蛍の灯

(三年 鈴木智之)



(蛍の幼虫飼育用水盤に水を足す・夏から来春までの大切な仕事 河合中)

明日を想う

栗木康男



最近の高校生の健康診断を行なうと、一クラス（四十五名）の中に、まず多いクラスでは二割以上、少なくとも一割余の者が何かの欠陥を指摘される。これは驚くべき事実である。

恐らくこの割合は園児学童においても同じかあるいはもつと高率であろう。

このことは今後の推移如何にもよるが、国の将来を想う時まことに憂慮に堪えないものがある。恐らく過去においてはこのような結果は出ていなかったであろう。もちろん、現在のように各種の計器を利用して精密な検査が行われなかったから発見出来なかつたとも考えられる。しかし正規授業中は申すに及ばず、体育関係

行事や、部活動中に思いもよらぬ事故が発生している。例えば、単に生徒が接触しただけでも骨折をする。走行中転倒したら、こと切れていたなど……その例は意外に多い。不幸にしてこのような事故が発生すると、教師の責任が厳しく追求される昨今である。このため教師は積極的に教育に専念する意欲や自信を喪失することがあるとすれば、教師残酷物語として放置しておくわけにはいかない。

近代社会に入る前の我が国の人口の自然増加は微々たるものであった。これはいわゆる、自然淘汰（地震、台風、冷害早魃など地球物理学的現象・悪疫の流行）であった。即ち一度無常の風が吹けば、

虚弱児は養の積に、大人でさえも集団的に餓死をしたのである。ところが科学の進歩によって、一度生を得れば完全と言う程この淘汰から救われるようになった結果、前記のような統計が現われて来たのであろう。人口増加の傾斜が急上昇しないのは、人為的であり、誠に結構なことであるがこの率を低下させることは出来ない。

さて、戦前に比して至れり尽せりの豊かさにより、過保護の下で育成させた青少年に、いま一つ遅しさを期待するのは私一人ではないと思う。

第一に保護者は今以上に就学までの健康管理・心身の観察・検診・鍛錬・その他に万全を期した上で教師に委ねて欲しいものである。健康児も虚弱児も平等に教育を受けられる時代なればこそ、学校側の求める最大の協力は、家庭での生活歴や生活環境などをすすんで提供して戴く事であつて、協力という形の圧力や、意見という抗議や批判ではない。虚弱児対策は慎重であるべきは当然であるが、その為に全体のレベル低下などで健康児に及ぶ阻害を許してはならない。極めて残念なことであるが学力評価を論ずる前に、基礎体力を向上の確立こそ当面の急務ではなからうか。

（岡崎北高等学校長）

学芸会

●劇「大きなかぶ」

松崎 ミサ子

「うんとこしよ、どっこいしよ。まだまだ、かぶはぬけません。」

前の子の腰に手をかけ、大きな声をはりあげているK子、リズムにのって楽しさでいっぱいである。

はじめのうちは、めそめそして、友だちも、またかという顔であつたが、けいこを続けていくうちに、後のN子が、「しつかり手をにぎって、Kちゃん、がんばって。」

と励ましている。ひよろひよろしていたK子も要領を覚えた。劇を作りあげていく過程の中で、一步一步きずかれていく人間形成、どの子も楽しくて、楽しくてしかたがない。

十二年前から続く「児童劇の会」文字どおり、児童たちがする劇の会である。

（梅園小）

●学習発表会

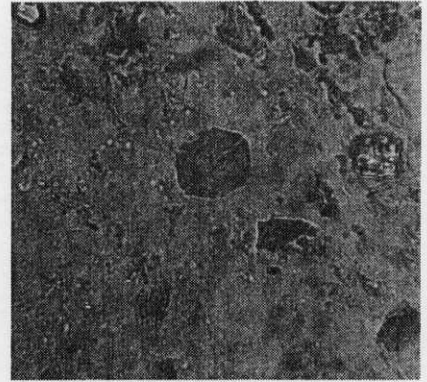
荻野 恭功

私の学校の学習発表会は、低学年は各

ふるさとの自然

ミクロの化石

花粉は語る



ハンノキの花粉化石600倍

化石というと、貝殻や木の葉、あるいは哺乳動物の骨のようなものを想起される人が多いでしょうが、化石の仲間には肉眼では見ることのできない小さなものも存在します。わずかに数ミクロンから百ミクロンほどしかない花粉の化石も、そのひとつです。

それほど小さなものにもかかわらず、花粉はポレニンという、弾力性があり熱にも強い蛋白質からできているため、少しぐらゐの地殻変動の熱にもびくともしません。今から二億年前（中生代）の岩石層から、その当時地球上に広く分布していたイチヨウやソテツの花粉化石が発見されているのですからびつくりさせられます。

花粉の化石は、層から取り出したままでは見つけることが困難です。塩酸やフッ素水素酸などの薬品で処理したり、遠心分離器にかけたりして、花粉だけとり

出す操作には、まる三日以上かかります。しかも、そうして処理した資料にどの程度花粉化石が含まれているかは、プレパラートにして顕微鏡で調べないと確かめられません。

三日間もかかった仕事が無駄になることが度々あります。花粉の化石は、堆積層にならどこにでも含まれているはずですが、地層の風化にもなつて化石も破壊され、ほとんど残っていない場合も多いのです。岡崎の第三紀層（岡崎層群）の場合がそうでした。

仁木町の、東名高速道路と国道二四八号線が交差するところに、岡崎市内で現在のとこ、ただ一か所だけ、亜炭を産出する地層があります。段丘砂礫層におおわれた、厚さ一メートルほどの地層ですが、分布が限られていて、他所では見られない地層なので、上の段丘砂礫層と同時代のものか、第三紀の岡崎層群の一

部なのか、それともそのいずれでもないのか決め手がありませんでした。幸い、この亜炭層は花粉の保存がよく、マツ、ハンノキ、ニレケヤキなどの温暖な気候を示す植物を主体にして、クマシデ、ツガ、サワグルミなどのほか、カラマツ、ブナなどの寒冷な所に育つ植物も混在することがわかりました。このことは直接地層のできた時代を考察する決め手にはなりませんでしたが、当時は現在よりやや冷涼な気候であったことを読みとることができました。また、岡崎層群の堆積したころ全盛であったメタセコイヤなどの花粉が見つからなかったことも地層を知る上で重要な手がかりになりました。

現在、セイタカアワグチソウなどの帰化植物の花粉がぜんそくをひき起こす原因として問題にされていますが、今の地質学では、花粉をはじめ有孔虫、放散虫などのミクロの化石の研究が注目をあび、その威力が効果をあらわし始めたところ

です。

四年ほど前、地学サークルの皆さんと岡崎市の地質の研究をしていた際、市内の数箇所の地層を花粉分析しましたが、不幸にも、この地層からしか花粉化石を発見することができませんでした。今は家庭と学校の仕事に忙殺されて、花粉との縁が切れてしまっていますが、鏡下であの幾何学的にととのつた美しい花粉をさがす魅力を忘れることはできません。

（大樹寺小 鈴木セツコ）

クラスで、中、高学年は体育館で実施している。

低学年では、教室の半分が舞台、半分が観客席になるが、種目によっては教室全部が舞台になることもある。

また、発表内容も劇、歌、研究、紙芝居等々、盛りだくさんで、道具は学年で用意し、持ち回りで使用している。

「全員を出演させるには、何かよい劇はないだろうか……」

こんな苦労はない。日ごろの学習成果を総合的に発表し、子どもの自主的・創造的活動を通して責任と協力の態度を養うこの方式を続けている。（連尺小）

●音楽劇

中村素子

学芸会に子供の主体性を大切にして、せりふは国語学習の中でねり合い、動作は体育学習で研究させた。

そして音楽面では、歌唱、器楽、創作と多方面にわたつて、子供の可能性を追求することができた。

特に、音楽を体で感じ、心で歌うことを体得するのによい機会となった。「その歌をうたう時のぞうさんの気持ちはどうだったの？」と言うと、一生懸命に気持ちをこめて努力する。その表情は、一つ一つ意味があり、子供なりの解釈によって生まれてくる。

じぶんたちが歌の中に劇の内容を作り上げていったところに、子供自身が、音楽劇のよさを発見したように思う。（男川小）



- 1 姉妹校所在地
- 2 発足年月日
- 3 提携を結んだ動機
- 4 活動状況
- 5 相手校の紹介
- 6 本校の活動

福山市立竊小学校

井田小学校

- 1 広島県福山市竊町
- 2 昭和四十七年八月十四日
- 3 岡崎市が昭和四十六年、広島県福山市と姉妹都市を結んだので、翌年井田小と同規模位で海辺の学校を選び、妹

妹校となった。

4 毎年夏休みになると、姉妹校相互訪問を行い、児童会の活動を話し合った

り、市内、名所見学、家庭訪問をした。本年も竊小の代表を迎え、二日間にわたる楽しい交友をし、本校からもバス二台を連ね竊小訪問を行った。図画、習字等の作品交換もし、両校児童の視野を広げるのにも役立っている。

5 学校は福山市の南のはずれ、竊の浦

海岸の高台にあり、瀬戸の海が一望される大変景色のよい所にあり、奉仕活動として日本青少年赤十字運動を続けている。

6 本校には竊小コーナーが玄関にあり

児童作品、訪問写真、漁業関係道具、福山市名所写真などを掲示して学校の資料として活用している。

石垣市大浜・平真・明石小学校

奥殿小学校

- 1 大浜小学校 石垣市大浜町一八二
- 平真小学校 石垣市平得町一七四
- 明石小学校 石垣市明石町

2 昭和三十九年二月

3 戦時中海軍施設部隊が石垣市立大浜小学校にあった。戦後その部隊の戦友会（八重桜会）が石垣市を訪問して交流を深めていった。大浜小から日本の教育にふれたいという希望を聞いた奥殿の会員が奥殿小学校と姉妹校締結の縁結びとなり、その後平真小、明石小に広がった。

4 奥殿の子どもたちはこれまで学区外との交渉が少なかったが姉妹校三校との作品交換や文通などは、広い社会に目を向け社会性を伸ばすには大変効果があった。また、大浜、平真、明石の各小学校と本校の研究物の交換を行い参考にしていく。

5 大浜小学校は石垣市で最も古い歴史

をもっている名門校で市の研究の中心となつている。平真小学校は大浜小学校から分離した学校で現在学校図書館モデル校として読書指導の研究を進めている。

豊田町立豊田下小学校

生平小学校

- 1 山口県豊浦郡豊田町手洗
- 2 昭和四十八年十月四日

3 昭和四十八年四月、故鳥居校長は本校学区の誇る源氏蛭と同様に、わが国有数の発祥地である山口県木屋川のとりの豊田下小学校に提携をよびかけられた。同年九月、九州での全国源氏蛭大会で両保存会長の話し合いによって、いっそう具体化された。

4 児童の作品等の交換や、児童相互の

文通を通して、未知であった両校の親善を図り、教育効果の向上に役立った。

5 天然記念物木屋川の源氏蛭発生の中

心地に近い学校
・ホテル保存研究（ホテル、川二十の研究）
・ホテル保護少年団結成

・学校規模 六学級 児童数一二四名（昭和四十八年度）

6 昭和四十八年鳥居校長姉妹校訪問。

・昭和四十九年豊田下小学校校長来校。

・昭和五十年小林校長姉妹校訪問。

・作品交換年二回、文通児童多数

ダロブナー・エレメンタリー・スクール

美合小学校

1 カナダ、マニトバ州ウィネベック市

グロブナー・アベニュー一〇四五

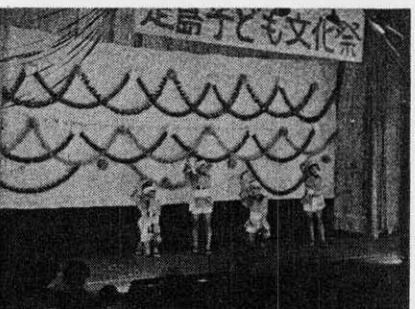
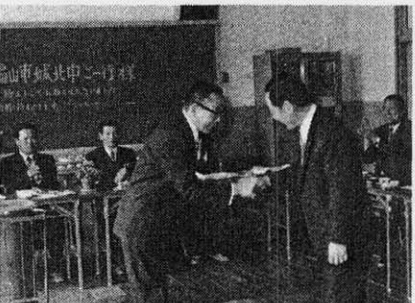
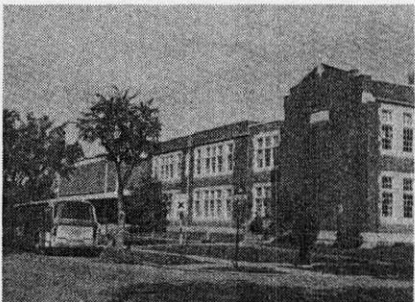
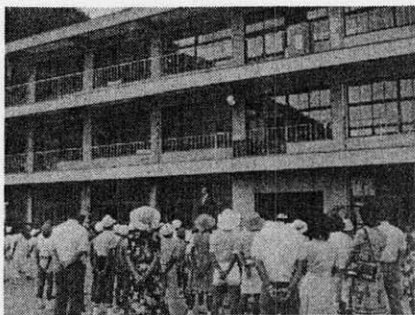
2 昭和五十五年五月

3 昭和四十六年本校々長欧米各国教育視察の際同市を訪れて以来同市教委・友人等と交際、四十八年四月知己の一人キング小G・サミュエル校長らが教育視察に訪問し来校、本校側から同校児童の招待を申し入れた。

以後両国政府と同市教委の指導と同女史の世話でその友人アン・フィリップス校長のグログナー小学校が紹介され、両校で協議を重ね四十九年十月同校児童十二名が来校、翌五十年五月六月美合・緑丘両校児童十八名が答礼訪問。この時双方の校長・P長等協議して姉妹校の約を結んだ。

4 児童の相互理解と友情が深まり、視野が広がり、また両市間の友好と日加両国の親善にも役立った。

両校間の作品・資料等の交換、児童相互の文通も盛んになり、家族ぐるみの交際も生まれた。両市教育間で教育関係者の相互訪問も始められた。



サバチイナ・ミナチ中学校

福岡中学校

- 1 イタリア、ナポリ市ドミニコフォンテナ通り一三六
- 2 昭和五十年十月
- 3 神谷校長が県教職員海外研修でイタリアの教育事情視察をしたことから生徒の視野が広くなり、イタリアを通してヨーロッパをはじめ世界各国への理解を深めている。
- 4 生徒数六百人、ナポリ市西部の住宅街のはずれにあり、中級サラリーマン家庭の子供が多く通学。学年は日本と同じ三学年制だが、小学校が五年制のため一学年若い。校地が狭く大理石の六階建ての校舎だが、それでも生徒が多く午前と午後の二部制授業を実施している。体力づくりに柔道を取り入れているくらい親日的な学校である。

福山市立城北中学校

マウントプレザント
ジュニア・ハイスクール城北中学校

- 1 広島県福山市木之庄町一〇〇
- 2 昭和五十年二月
- 3 岡崎市と都市提携をしている福山市の城北中学校から、近藤校長と生徒会担当の先生十名が本校を訪問され、「同じ学校名同志が手をとり合って、生徒も父兄も、地域ぐるみの交流をはかりたい。」と話し合われた。
- 1 アメリカ、ニュージャージー州リビングストン市ブロードラウン・ドライブ一
- 2 昭和五十年九月
- 3 アメリカ、ニュージャージー州ラトガース大学に留学する本校卒業生内田康宏君に、本校生徒から「ぜひ、アメリカの中学生と文通によって交際し

たいから紹介してほしい。」と依頼したところ、内田君は、リビングストンの教育長を訪れ、母校の様子を説明し、適当な学校を紹介してくださいようお願いした。

五十年九月、マウントプレザント中学校から「喜んで交流しよう」と手紙と共に案内書が届き文通を行っている。

福島市走島中学校

常磐中学校

福山市内とはいえ、瀬戸内海上に浮かぶ島の中学校、それが姉妹校の走島中学です。その点、三河高原への入口にあたる本校とはきわめて対照的な位置にあります。

しかし、その他の点ではいくつかの共通点を持っています。全校生徒数が百数十名であること、自然のよき環境にいだかれていて、のびやかですなおな生

徒の集まりであることなどです。

距離的な隔たりにから、実際に顔を合わせて交流することはできません。そこで生徒会を中心に、両校のさまざまな行事やできごとを生徒の作文などで紹介し合うことが交流の軸となっています。

一昨年夏、岡崎から福山へ剣道の選手が親善を兼ねて試合に出かけました。本校からは学校長と沓沢一善君が参加しました。沓名君はその時の生徒会長でもありましたので、福山市内で走島中学の代表と会い、話し合う機会を得ました。

両校とも学校の環境からみて視野を広める必要があり、その点では交流には意義があると思います。

- 写真説明・上から
- ・バス2台を運んで訪問(輛小)
 - ・広い校地と美しい芝生(グロアナー校)
 - ・日本人視察団を迎えて(ミナチ中)
 - ・なごやかに固い握手の中学生の心意気(走島中)

生活指導の場で

美中 久
六ツ 今 泉

学級会の時間であった。月間目標の「きまりを守り、規律ある生活をする」について話し合う中で、廊下の歩き方が問題になった。

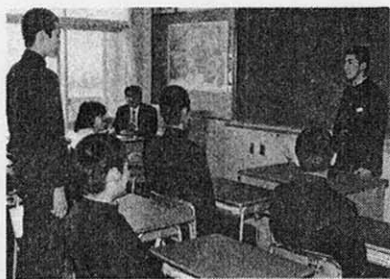
廊下を走らないようにするには、「見つけたら週番がしっかりと注意する。」「走った者には罰を与える。」など、例によって罰則についての方法や意見が先行した。

走ったらどうするかを論議する前に、なぜ走ってはいけないかという根本的な問題から考えなくては、いつまでたっても同じ話し合いをくり返しているだけだという意見もでて、振り出しにもどって話し合うことにした。

ところで、この話し合いに珍しくN君が発言を求めた。N君は、ふだん無口で気も弱く、ほとんど自分から進んで発言する

ようなことのない生徒である。そんな彼が、ポツリと一言、「廊下は走るところではないではないですか。」と。もちろん教室中に笑い声がおこった。「そんなことあたりまえだ。」と、半ばかにしたような声もとんだ。N君自身は、どんなつもりで言ったのかはさておき、この一言になぜか胸を打たれるものを感ぜずにはいられなかった。

たしかに、現在の生徒はものの考え方が論理的で、発言ももしっかりしている。何かにつけて要領もよい。しかし、表面的にはよさそうに見えても、根本的な素朴な意識や実践に欠けた者が多いように思われる。他人に迷惑をかけないとか、物を大切にしようという意見もたしかに正しいが、概念的な知識として理



解しているにすぎないと思う。廊下の歩き方の問題だけに限らず、知識的なことや解決の方策だけを求めるのに急で、「廊下は走るところではない」という根本的なことをなおざりにしているのではなかったかと反省し、知識論理や高度の技能より生活の場で考えなければならぬもののあることをN君の発言から再認識させられる思いがした。

教育日々

チャンスを生かす

細川小
佐藤真寿美

これは、九月の水泳大会が終ったあとの深見君の日記である。二百メートルリレーのとき、長坂君が二十五メートル泳いでターンをした。一位との差は十メートルぐらいいった。ぼく

はもうだめだと思った。長坂君がゴールについた。山岸君たちが「はい。」といったので飛びこんだ。ぼくが二十メートルぐらいいったとき、一位の子がターンをして、もう五メートルのラインまできていた。ぼくは、ターンをして、あと八メートルぐらいいのとこでさいとう君が見えた。そして、あと四メートルぐらいいのとき同じだった。そしてあと二メートルぐらいいのときぬかしてゴールインした。

勝った！この子たちにとつて、普通学級に勝ったなんて、今まで一度もなかった。この時、この子らは何を感じたろうか。私は「真剣になること」のすばらしさをあらためて教えられたひとときであった。

新任で、初めてこの子らに對面した時の緊張感は、今でも忘れることはできない。男ばかりだった七人の小さな集団だが、かかえている問題は、学習、いじめつ子、閉鎖的、反抗など、数限りない。私は、それらにどう対処していったらよいか、計りきれず、一学期の間、この子らの言動に振り回され、右往左往してきた毎日だった。夏は、水泳の大好きなこの子



らの天下である。プールにはいる。タイムを計る。好タイムである。何度も何度も泳ぎまくる。まるで、水を得た魚のようであった。

そして、水泳大会。特殊学級と烙印を押され、自らも「どうせ他クラスには何をやっても勝つてこない。」と思っているこの子たちが勝つたのだ。閉会式には、校長先生に名指してほめられた。みんなから拍手が送られた。私も感激した。私は、このチャンスをその後日常生活に生かしたいと考えた。が、まだその方法がわからない。一日も早く、この子らの心がかめらるようになりたい。

お知らせ



新人選手各種目は大活躍

長距離のシーズン始まる

【研究発表校の刊行物】
 ◇正しく書く指導―両足の裏を床につけた授業― 矢作南小
 ほかに・写真日記へ学校づくりの歩み・正しく書く指導の実践記録
 ◇ひとりひとりの考えを育てる授業 生平小。ほかに・文集

「おいだいらの子」第39集
 ◇豊かな人間性を求めて 城北中。ほかに・城北の歴史
 ◇活動力のあるからだづくり 岩津小。ほかに・文集「いわづつ子」第2集
 ◇自ら調べ、磨き合い、生きる学習の建設(国語) 細川小

沢真貴子(城北) ⑥宮石春江(甲山) 【中学生男子】▽三千石 ①兼子薫(甲山) ②福応光二(城北) ③八巻尚良(甲山) ④岡田邦義(城北) ⑤梅村雅和(美川) ⑥赤堀正司(甲山)
 ■26回西三中学校長距離走大会(11月27日・県岡崎総合運動場、関係分のみ十位まで)
 ▽二千石×八 ⑥東海 ⑦甲山 ⑧常磐

■51年度西三中学校新人陸上記録会(11月3日・安城陸上競技場・関係分のみ三位まで)
 【男子】▽百石 ①川上康治(城北)

北 ②荻野竜也(葵) ③遠藤真弘(矢作) ▽二百石 ②田代和久(甲山) ▽八百石 ①三浦浩司(城北) ▽三千石 ③山本鎮(東海)

③兼子薫(甲山) ▽百石 H ②稲垣政春(矢作) ▽八百石 R ②矢作 ③甲山 ▽走幅跳 ①上田忠司(葵) ②山崎健二(六ツ美) ▽走高跳 ②前河浩之(矢作)
 【女子】▽百石 ②鈴木由佳(六ツ美) ▽二百石 ②竹内晶子(葵) ▽八百石 H ③大塚幸子(六ツ美) ▽四百石 R ②甲山 ▽走幅跳 ①山本美代(甲山) ②鈴木由佳(六ツ美) ③菅沼紀子(東海) ▽走高跳 ②加藤優子(葵) ▽砲丸投 ②青山富美(福岡)

■藤川小研究発表会 1月21日
 ▽主題子どもの中の学校図書館―図書館利用の習慣化をめざして―▽内容 ①体操朝会、学級朝の会、朝の読書、公開授業、研究発表、分科会協議、パネルディスプレイ▽講師 筑波大教授相川高雄先生、県立大講師勝尾金弥先生、S L A 芦谷清先生、同佐藤道生先生
 ■公・私立高校の募集要項
 【公立】▽出願 2月21日 28日(3月16日) 23日 ▽学力検査 3月16日・科目 国、数、英(3月29日、国、数) ▽合格発表 3月22日(3月31日)
 ※()内は定時制
 【私立】▽出願 2月1日 18日 ▽学力検査 2月22日 ▽発表 2月25日前後
 ※いずれも一部の学校を除く。

谷口吉郎先生設計 山岡荘八先生文学碑

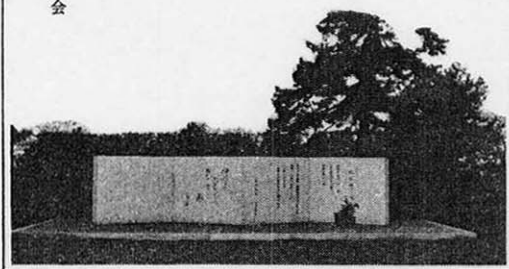
晩以前

武田信玄は二十一歳。上杉謙信は十二歳。織田信長は八歳。後の平民太閤、豊臣秀吉はしなびた垢面の六歳の小童だった。この年、天文十年。一衣帯水の海の彼方は明の時代、徳川家康 出生乱離の巻

神州の大氣を前に添う英

山岡荘八

・岡崎市制施行六十周年記念事業委員会
 ・昭和五十一年十一月七日除幕



■第8回市民マラソン大会(11月14日、県岡崎総合運動場、小中関係分六位まで)
 【小学生男子】▽千石 ①酒井健次(矢東) ②松本久(梅園) ③牧野由夫(六北) ④岩瀬幸治(矢東) ⑤志村政行(六北) ⑥鈴木敏治(大門) 【中学生女子】▽千石 ①杉浦幸子(甲山) ②多田井美砂(美川) ③小林美紀(甲山) ④新美由香(甲山) ⑤米

●51年度健康優良児童・生徒

区分	小中別	男子						女子					
		男	子	女	子	男	子	女	子				
岡崎一	小	岡崎小	黒柳 一成	山中小	中根 由乃								
	中	付属小	今泉 孝朗	甲山中	三浦ひろみ								
準岡崎一	小	岩津小	竹内 政貴	岩津小	小野塚初栄								
		矢北小	杉山 竜介	連尺小	伊藤 克美								
	中	城北中	樽井 肇	南 中	村井 弘子								
		甲山中	尾崎 邦泰	城北中	飯田 絹子								

●51年度よい歯児童・生徒

区分	小中別	男子				女子			
		男	子	女	子	男	子	女	子
岡崎一	中	藤川	鋤柄 豊	矢西小	石田 幸枝				
	中	東海中	鈴木 富雄	甲山中	三宅 祐子				
準岡崎一	小	井田小	番 康司	矢南小	作間 薫				
		細川小	岡本 孝則	愛宕小	鈴木とも子				
	中	南 中	浅田 直樹	城北中	広山 啓子				
		葵 中	金山 芳久	東海中	加藤五十公				

※いずれも小6年生、中3年生



所在地 - 岡崎市日影町

岩津発電所

滝脇行きのバスで東岡崎から四十分程行くと、山間の川向こうにこじんまりした発電所が目につく。中部電力のなかで最も古い岩津発電所である。

明治二十八年、日影村滝脇の大瀑布を訪ねた杉浦銀蔵氏は、ここを発電の適地と定め、合資会社「岡崎電燈」を設立した。以来、反対者を説き伏せ、同三十年に出力五十キロワットの岩津発電所を完成させた。

しかし、ここから四里の岡崎まで、電燈線を引っ張るとい

のは難問題で、全国でも類がなかった。杉浦氏宅に明りがついた時、行燈暮しの付近住民は、電燈の明るさに仰天したという。その後、需要者の増大により、倍増工事も行い、供給範囲も拡張した。

大正十五年、火災にあい、現在地に移転、昭和五年に中部電力となった。創業以来八十年の今、二百五十キロワットの電力を、発電所付近と松平付近の消費電力二千五百キロの一部として、元気に供給し続けている。

カット 南 中 富 樫 章 紀

この本を

- 八大教育主張 小原国芳他編 ￥ 2,500
- 続・照葉樹林文化 上山春平他 ￥ 420
- この父にして 齊藤茂太・北杜夫 ￥ 880
- 続・逆転の発想 糸川英夫 ￥ 870
- 行動は進化するか コンラード・ロレンツ 講談社現代新書 ￥ 390
- 太陽系 堀源一郎 ￥ 280
- たが身の風景 池田弥三郎 ￥ 1,200
- おふくろ 樋口清之 ￥ 800
- 蓼麻の家 萩原葉子 ￥ 760
- 忍ぶ草 毎日新聞中部本社編 ￥ 980

血相変えて職員室にとび込んで来た男の子。自分のそそいで先生の車のガラスを割ってしまったことを告げた。

正直な態度である。その真剣なまなざしに、とがめる側の先生が慰め役にまわる。すがすがしい職員室のひと齣。

・正直捨方便

けしごむ

信条……：子供の前に立つ時の……：
 ・なにことも真剣に行う。・子供に差別感を与えるような言動をしない。・不用意なことはで子供を傷つけない。
 他意のないことばでも、子供の立場を忘れた時の教師の言動が、子供に生涯忘れられないほどの傷をつけたりすることがある。自戒したい。

ごーん。お寺の鐘の鳴る頃、子供らは家路に着く。電気がつくとかばんから教科書を出して読む。声を出して。ラジオも車もない時代、障子を通してあちこちの家から聞こえる子供の声。教師として心温まる一時であったという。まもなく除夜の鐘、惜しむらくは電波の中。生のよき、生のぬうちを教えたい。

むかしの子供は遊具を自分たちで作ることから遊びが始まった。竹とんぼ、お手玉、杉玉鉄砲など……。こうして子どもは器用さと工夫する力とねばり強さを培ってきた。最近はずいぶん精巧な玩具が出回っているが、使う楽しさはあっても作る楽しさがないのは、子供にとって不幸ではないだろうか。